

石巻に新しく出来る児童館の運営基盤づくりに関わってほしいとセーブ・ザ・チルドレンから相談されたのは2013年1月のとても寒い日だった。それから月に1回程度、現地に行き、利用や運営に子どもたちの声を生かすにはどのような仕組みが必要か、行政の担当職員、セーブ・ザ・チルドレン担当者とともに意見を交わした。「子どもの権利を柱に、子ども参加で運営する」という柱が決まり、具体的な事業の枠組みを作ったのだが、子ども参加を実現するには、行政直営の児童館では中々難しいところがある。子どもの意見はぎりぎりまで決まらないし、直前での変更もある。こんなことがやりたいと決まっても、予算は既に決まっている。しかし、子ども参加とはなんぞやを理解しているセーブ・ザ・チルドレン職員が、確固たる信念を持ち、行政に理解を求め、たいがいのことはクリアしていく姿に何度勇気をももらったことか。いっしょに理想の児童館を追求した日々は私にとってかけがえのないものになった。

今でこそ全国の児童館職員研修の中に組み込まれるようになったが、子どもの権利を理解する講座は古い子ども観（弱くて守られる）から抜け出し、子ども主体へとシフトしていくための基本の講座で、セーブ・ザ・チルドレン講師ならではの内容であった。また、年に2回、セーブ・ザ・チルドレン職員ファシリテートによる事業の振り返りも行った。これらのことが、「子ども参加」を職員の中にゆるぎないものとして位置づけることが出来、ひいては「らいつスピリッツ」という言葉が生まれる元になったのではないかと思っている。

2017年に市の直営から指定管理者へと移行する時には、子ども参加で運営する児童館ならば指定管理者選定も子ども参加でと提案し、その実現ができたのもセーブ・ザ・チルドレンの存在があつたこと。全国で初の試みであつた。いつもチャレンジャーな「らいつ」であるが、これからも先駆者であり続けてほしいと願っている。そして子どもまちづくりクラブメンバーが宣言したように、全国に「らいつ」のような児童館が広がってほしい。

こどもフォーラム 代表 原 京子

(石巻市子どもセンター初代施設長 2014年1月～2016年3月)